

優良技術者表彰

受賞者 Interview



渋谷 憲昭さん(33歳)
(株)フジタ
横浜支店 土木部 東俣野幹線作業所



取材先の工区概要を説明する渋谷さん。同工区にある壁体深度64mの発進立坑は、本号の表紙を飾っている。

1994年、(株)フジタに入社。昨年、初めて現場代理人兼監理技術者を務めた「西部下水処理場基盤整備工事」(横浜市発注)においてその実績が認められ、今年度の優良技術者表彰を受けた。保有資格は1級土木施工管理技士、1級造園施工管理技士など。

目に見えない苦労や段取りがわかる技術者になりたい

「工事というものは実に多くの人たちの力を必要とするのに、自分1人がこのように表彰されてしまって……本当に面映い限りです」

今回、渋谷さんが優良技術者として表彰を受けた工事は、実は初めて現場代理人兼監理技術者を務めたところだったという。いうまでもなく責任ある立場だ。

「今までのように現場の一係員という立場であったころは、正直なところ、何かあっても“上が守ってくれる”という甘えがあったと思います。それが、初めて自分がその立場になってみると、けっこう口うるさくなってしまって…… (笑)」

たとえば、所内で作業員の不安全行動を見つけたとする。これまでのような係員という立場であれば、注意する言葉にどこか表面的な響きがなかったか。それが初めて責任ある立場を務めてから変わった。

「作業員の後ろに家族が見えるというか、その人

が万が一にもケガでもしてしまうと、どれだけその人の家族は悲しむことになるのか。そう考えたときに《こういう危険が予測されるから、こういう注意をください》と、具体的に、しかも相手のことを思っ

て注意できるようになったのです」

もちろん、こういった物事の背景まで見通そうとする変化は何も安全に限ったことではない。今後の目標を聞かれて「常に先手を打てる、しかも人の苦労や段取りが読み取れる技術者になりたい」という答えが返ってきた。順調に進んでいく仕事の影には、必ず苦労した人、すばらしい段取りをした人がいる。だから「そういった目に見えないところが“わかる”、何よりそういったことができる技術者になりたい」。

これからの成長が楽しみな「優良技術者」がまた1人、業界に誕生した。

